

令和6年度第三者評価 改善状況報告書

令和7年3月31日

施設名	港区立芝高齢者在宅サービスセンター（認知症対応型通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区芝3-24-5	指定管理者	医療法人財団 百葉の会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 （共同事業体の場合記入）	令和7年3月までの改善状況等 （指定管理者記入欄）	令和7年4月以降の取組予定 （指定管理者記入欄）	所管課確認欄 （施設所管課記入欄）
施設運営に必要な情報の収集・利用・保管・廃棄について、港区のルールを遵守するとともに、全職員に研修等によって周知されている。 また、個人情報の取扱いについては、港区個人情報保護方針に基づき、全職員から誓約書への署名を義務付けている。さらに、収集した情報は重要性や機密性を踏まえ、データ情報はPCのID・PWによるアクセス制限、紙情報は施錠付き書棚で保管し、情報漏えいの防止を図っている。 今後、介護サービス情報の一元化により、介護職員の情報入力削減による職務負担の軽減の実現が望まれる。		港区介護ロボット等導入費用補助金を活用し介護ソフトを導入するための検討会議を実施し、新年度に向けた導入準備を進めた。	港区介護ロボット等導入費用補助金を活用し、介護ソフトを導入する。その際、ケアプランデータ連携システムも導入予定。	港区の補助金を活用した介護ソフト導入に関する検討状況を確認できた。 情報管理においても、区のルールに基づき適切に対応できており、職員への周知も徹底されていた。 今年度は、介護ソフト及びケアプランデータ連携システムの導入により、情報の一元化と職員の業務負担の軽減が一層図られることを期待する。
記録や情報共有の仕組みは整えられており、日常の業務の流れ等について、過不足なく実践できているが、各業界でもICT化への流れは進んできており、介護事業においても同様の状況。 今後は予算等を検討し、システム導入のメリット・デメリットを検討した上で、導入に向けての職員研修等を推進し、事業所内に限らず、法人や地域、行政とも、確認・連携しながら、将来に向けた取組の計画を立て、検討・推進していくことが望まれる。		個別計画書の作成、介護記録や実績処理等について、現状のシステムでの流れを日常業務の手順で行い、かつ効率を考えた見直しを随時行った。 今後のシステムの導入を見据え、より効率化に繋がるイメージを持ち、そのための準備会議を行ったことで、上記（介護ソフト等の導入）と連動できると考えている。	港区介護ロボット等導入費用補助金を活用し、介護ソフトを導入する。その際、ケアプランデータ連携システムも導入予定。	現行システムを活用した業務効率化の見直しに加え、港区の補助金を活用して介護ソフトの導入準備を進めている。 記録や情報共有体制も整備されており、今後のICT化に向けた意識の高さが見受けられる。 今年度は、システム導入後の職員研修や法人・地域との連携を通じて、業務効率とサービス品質の更なる向上を期待する。
新型コロナの5類移行に伴い、地域住民との交流を再開している。 近隣の小学校、学童クラブ、保育園の子どもたちとの多世代交流の機会を持ち、中学生との交流では、生徒たちが合唱を披露したり、手作りのプレゼントを渡したり、利用者は楽しい時間を過ごすことができています。 保育園児や小・中学校の生徒、町会の方を招いて、ブンネ演奏を披露するほか、制作活動で作った作品の展示会を開催するなど、コロナ禍以前の地域交流のレベルに戻ってきている。 他者交流は利用者にとって貴重な体験となることから、関係者と協力しながら、引き続き地域の交流拠点としての役割を果たすことが望まれる。		地域拠点の役割と高齢者の居場所、生きがいを持った活動や世代間交流の企画を重要なものと認識し、今後もより魅力的な交流や企画を実施していく必要がある。 このため、職員の役割分担の確認やボランティアの受入機会を増やせるよう企画会議を行い、新年度の年間計画を検討した。	職員の役割として、ボランティア担当を新設し、年間の月行事担当に「ボランティアの活用」をイメージし、イベントの企画に取り入れるよう進めていく。 お楽しみ企画だけでなく、歯科医師による口腔ケアの話（健康意識啓発）や警察による詐欺被害防止の説明など、高齢者の生活支援全般の内容も積極的に取り入れ、これまでの交流の拡充に取り組む。	地域拠点としての役割を意識し、多世代交流や高齢者の生きがい支援に向けた企画を職員間で検討し、年間計画に反映させている。 ボランティア活用の体制整備も進められ、地域との関係づくりが着実に再開されている。 今年度は、健康や防犯など生活支援に関する内容も取り入れ、コロナ禍前を超える地域連携の深化を期待する。